

# 発売開始！

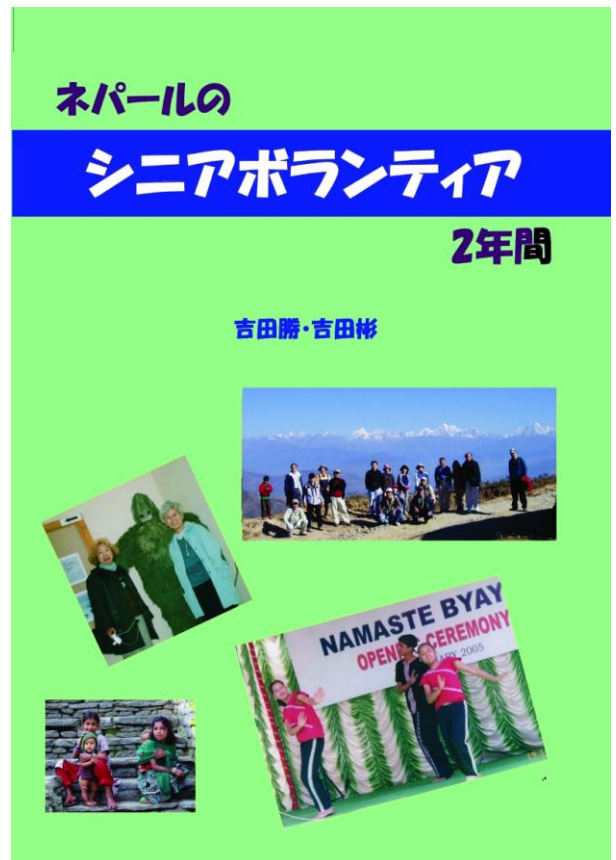
## ネパールの シニアボランティア 2 年間

吉田勝・吉田彬著  
フィールドサイエンス出版

総カラー、A5 版 230 頁  
販価 冊子体：1500 円  
電子ファイル：1000 円

### 販売：

★ゴンドワナ地質環境研究所  
648-0091 和歌山県橋本市柱本 147-2  
電話・ファックス 0736-36-7789  
E-mail: [gondwana@oregano.ocn.ne.jp](mailto:gondwana@oregano.ocn.ne.jp)  
★アマゾン 通信販売  
<http://www.amazon.co.jp/>



表紙イメージ

ネパールは魅力的な国である。亜熱帯のテライ平原からツンドラ気候帯のヒマラヤまで、南北にドラスティックに変わる国土のなかに数十の民族がそれぞれの風習と伝統を持って生活している。よく引き合いされる GDP からは、世界の最貧国の中に入っており、国民の収入レベルは同じ貨幣価値で比較すると日本の十～十数分の一のレベルである。日本は数年前まで、このネパールに対する世界一の援助国であった。このことはネパールの国民一人一人によく知られており、ネパールは官民とも、大の親日国である。ネパールは日本人にとって優しい、魅力的な国である。

一方、シニアボランティアは、定年後の第二の人生を生き生きと意義深いものにする選択肢の一つに数えられ、最近増加している元気な高齢者たちには関心を持つ人も多いであろう。

私たちは幸運にもそのようなネパールで 2 年間のすばらしい経験を得ることができた。本書を通じてネパールの人、社会と自然の様子と、JICA シニアボランティアの実情を垣間見て頂けるであろう。

(同書 緒言から)

## 目 次

### プロローグ

JICA シニアボランティアに応募； シニアボランティアとは； 出発準備ーカトマンズへ

### 日本からカトマンズ到着までー随伴家族の目から（１）

派遣前シニアボランティア研修会； シニアボランティアの随伴家族とその待遇； ネパールという国； 政情不安定； カトマンズ

### カトマンズとポカラ

カトマンズ第１日目； キドホテル、アボカドアパートとサンセットビューホテル； JICA ネパール事務所； トリブバン大学； トリチャンドラキャンパス地質学教室； カトマンズの貸家探し； チャウニの家「スツチェン」； 家賃交渉； カトマンズの交通事情； ポカラへ； 国際山岳博物館； 平和記念塔の丘； ポカラのホテル

### 「ナマステ」、「メロナムヨシダホ」ー随伴家族の目から（２）

住んだ家； 水事情； 日常生活・交流・出会い； ネパールの物価・貧困層・富裕層

### 我が家の使用人と愛犬達ー随伴家族の目から（３）

モナ・グルング（メイド）； スレッシュ・シャヒ（運転手）； プレム・マハルジャン（庭師）； グルングとその配下達（ガードマン）； ペニーとポップ（シェパード２匹）

### シニアボランティアの仕事-1

２年間ボランティア活動のプランニング； 各プロジェクトの内容； シニアボランティアの業務活動予算と高額備品予算； シニアボランティアの業務活動報告

### シニアボランティアの仕事-2

トリチャンドラキャンパス地質博物館の特別公開； トリチャンドラキャンパスのヒマラヤ地学博物館への変身計画

### シニアボランティアの仕事-3

トリブバン大学地質学教室の野外実習合宿； ポカラ盆地の地下構造調査； JICA 広域セミナー

### シニアボランティアの同僚たち

シニアボランティアグループ； 交通警察の馬場喜代志代志さん； オフセット印刷技術指導

の奥靖さん； 就学前障害児療育の井上節子さん； 情報技術(ICT 管理)の早坂吉昭さん； 観光開発の望月充丈さん； 青果物流通の斉藤豊寿さん

### ヒマラヤを歩く-1 アンナプルナ地域の地学野外研究

２年間のヒマラヤ野外研究計画； アンナプルナ地域； ジョムソンからムクチナートへ； カリガンダキ河を下る

### ヒマラヤを歩く-2 エベレストルートの野外調査と地学ガイドブックの発行

エベレストの野外調査とガイドブック計画の立ち上げ； ナムチェバザールへ； エベレストベースキャンプへ

### カディンチェ！ブータンー随伴家族の目から（４）

ブータンへ； ブータンの印象； 水力発電； 松茸事情； ダショウ・ニシオカ； 旅行日誌； ブータンの俳句 13 句

### JICA ネパール事務所と JICA 本部の問題点

シニアボランティア活動で遭遇した問題点； シニア海外ボランティア処遇及び制度の見直し問題ー（１）ネパール赴任 S V と JICA ネパール事務所の動き； （２）ネパール S V らの意見集； （３）JICA 本部への申入れと回答

### シニアボランティア 2 年間活動の総括

業務活動の総括； 提案及び要望

### エピローグ シニアボランティアを終えて 2 年間のシニアボランティア活動のハイライト；

シニアボランティア活動から次の活動へ； JICA ボランティアは素晴らしい

### 引用文献

### 編集後記

++++++  
表紙 写真右上：ナガルコットからチャングナラヤンへのトレッキング、ヒマラヤの眺望が素晴らしい。左上：ポカラの山岳博物館に展示の雪男想像模型、右の人物は作者の安藤祥子さん  
右下：2004 年赴任の酒井直之シニアボランティアがネパールに広めたラジオ体操「ナマステ・バイヤム」を披露するネパールの学生達  
左下：アンナプルナ国立公園のダナ村の少女

絡等もこのホテルがボカラ唯一の拠点となっていた。そんな関係もあって、カトマンズ在勤の日本人達にはなじみの宿でもあった。観光客向けの通常価格は一室 60 ドル程度であったが、JICA 特別割引などがあり、多分ネパール在住の日本人は皆かなりの特別割引価格で泊まることができるのであろう。尤もこの時に私の野外調査に同行した教室の仲間達は、ホテルに 1 泊後、宿泊費が高すぎるとしてマネージャーと値引き交渉をしたがまとまらず、結局近くのゲストハウス（ノーブル・イン）を紹介されてそちらに移ってしまった。



ママズーデンの客室建物（ホテルのホームページから）



ホテルノーブルインの前で、ボカラ盆地調査の一行。

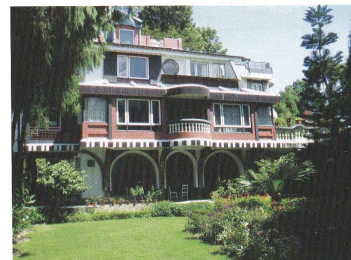
＜ノーブル・イン＞ 来ネ 6 ヶ月目の3月のジョムソン野外調査の帰路を含め、私のボカラ宿泊はほとんどこのホテルを利用した。ママズガーデンの近く、同じような閑静な場所に、小道に沿って十数軒のきれいなゲストハウスが並んでおり、どれも皆結構広くきれいな部屋と美しい庭や食堂があり、2~3 人部屋 1 室 250 ルピー（共同シャワー）から 400 ルピー（シャワー・トイレ付き）、つまり 3.5 ドル〜5.5 ドルほどが通常の価格である。ノーブルインはそのなかでも新築、簡素で清潔なホテルで、かつマネージャーや雇い人達も及第点だった。しかし同行したウプレティ教授は一人 100 ルピー（彼らはネパール人ということ）で割引を受けた）ではネパールの観光産業は何時までたっても育たないと憤慨していた。

## 「ナマステ」「メロナムヨシダホ」\*一随伴家族の目から（2）

### 住んだ家

ネパールに到着してすぐ、不動産屋の紹介で家探しをはじめた。到着後三日目で右も左もわからない私たちにとって心強かったのは、大阪市立大学地質学教室で博士号を取ったトリブバン大学の若い教員二人が一人ずつ交代で、家探しに同行してくれたことだった。二日間で 10 軒ほど見学し、二日目の最後に訪問した家が気に入った。

この家はカトマンズ南西部チャウニ地区の国立博物館の裏手にある“Succhen”（“幸せを呼ぶ”の意）なる屋号の家だった。スッチェンは、部屋割りはなかなか面白く、いつも客を迎えることを考えて、浴槽付きの浴室のある家をさがしていたので、一階に一つ、二階に二つ浴槽付きの浴室があることが気に入った。それに庭の雰囲気も気に入った。



スッチェンの庭から見た建物、暗く見える地階には卓球台があった

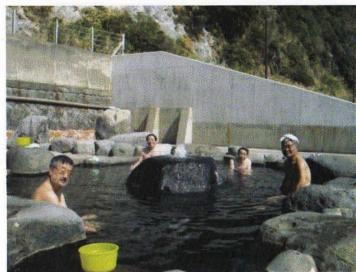
家そのものの外観もユニークだった。斜面に立ててある家で、玄関ホールのある階の前庭は 80%ほどが石畳で、咲いている花は全部鉢植え、鉢の数は 800 個もあると大家はいう。玄関左脇には噴水もある。又玄関右手奥には池もある。又台所の外から階段を下りていくと、何本ものヒノキのような木に囲まれた、芝生の庭がひろがっている。建物の地階に当たる部分は庭を向いて 10 畳ぐらいの部屋とシャワー付きの便所があり、大家は自分の事務所にしていた。そのほかの空

\*ネパール語で“こんにちは”、“私の名前は吉田です”

まで行なわせ、日本政府に提案の採択を迫るというかつこよさだった。その後若干遅れはしたが、彼の計画はもくろみ通りに採択され、新青果市場は 2008 年から機能しだしている。

このように有能な斎藤さんではあるが、いたずら好きでウイットに富み、また、なかなか温かみのある人柄で、帰国後、伊豆半島熱川温泉にある別荘に私達同期 SV を招待し、大いに旧交を温める中心的な役割も担ってくれたのだ。ネパール SV からの帰国後について、ご本人に問い合わせたところ、以下の情報を頂いた。

「帰国 1 年後に再び SV としてバブアニューギニアに 2 年間赴任し、投資促進局で新規投資促進及び商品開発の指導に携わった。その後引き続いて 2009 年から 2 年間はアフリカのウガンダで有機農産物育成流通公社に赴任し、有機農産物の生産促進と流通促進に取り組み、有機農産物を欧州に輸出する事業展開に携わった。」



熱川温泉での同期会（2006 年 3 月）

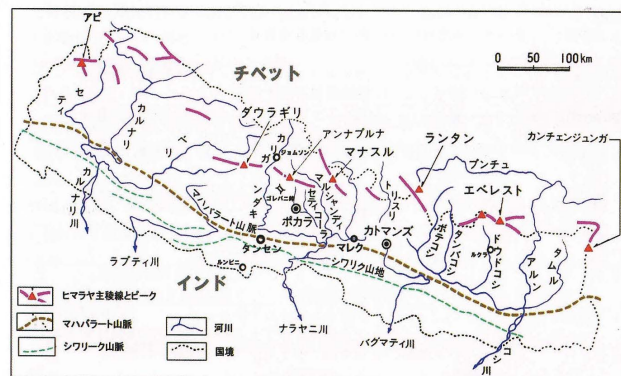
このように斎藤さんは次々と SV 活動で成果を出してこれたが、残念なことにウガンダから帰国後に体調をくずし、目下リハビリに励んでおられるとのことであるが、回復は順調のようで、そろそろ再び SV としての活躍を始めるのでないかと私は思っている。そのうち威勢のいい活動報告が世界のどこからか来るに違いない。同期 SV には期待の星なのである。

## ヒマラヤを歩くー1 アンナプルナ地域の地質野外研究

### 2 年間のヒマラヤ野外調査計画

シニアボランティアとして、私の仕事の第一は、何と言っても共同研究だ。共同研究を通じて赴任先のトリブバン大学地質学教室の研究環境や国際性の向上に協力できるのである。何を共同研究するかは、すでに数年前にウプレティ教授と打ちあわせ済みで、ネパールヒマラヤの地質研究をできるところから始めようということである。地質研究の手始めは、まずは野外調査から始まる。

赴任 3 ヶ月後の 2004 年 1 月に、カトマンズから西に 170 km ほど離れたタンセン地域の山の中で、3 週間の学生野外合宿実習（3 年生）があった。まずはこれに 2 週間だけ参加し、久しぶりにネパールヒマラヤの地質学を満喫した。



ネパールの山系、河川系と野外調査地域的位置